

日 付	2019年7月24日 (水)	天 候	晴れ
主な日程	ストーンランドカンパニー CALIFORNIA POLYTECHNIC STATE UNIVERSITY		
時 間	研 修 内 容		研修の写真
9 : 25 Stone Land Company	農場主の方から3カ所の農場を車で移動しながら、それぞれ説明していただきました。 まず、はじめに麻を植えたばかりの農場に行きました。1週間前まで作られていたトマトの残りが土の中にあり、混ぜ込んでいるのか、所々土の中から見えました。最近、法律の変更があったそうで、大麻の栽培ができるようになったとのことでした。痛み止めの薬用に含まれる成分を考えた栽培をしているとのことでした。 次にトマトの農場へ移動しました。ここでは加工用トマトを栽培しており、支柱などのない地這いによる栽培方法が行われていました。灌水は畑に埋設されたパイプで行われており、根に直接水が入る仕組みになっていました。また、収穫も大型機械で行い、間近で見るその様子は驚きでしたし、日本で見るトマト栽培とは全く違っていました。 最後にニンニクの農場へ行きました。地上部を刈り取った後の収穫間際の状態でした。他にも、300エーカーを一つのブロックとして、綿花やタマネギ、メロンなどを栽培する場所を変更しながら13,000エーカー栽培しており、スケールの大きさを実感しました。		  
12 : 30 CALIFORNIA POLYTECHNIC STATE UNIVERSITY	午後は農業大学を視察、とても広大な敷地で、バスで施設を回りながら見学しました。 学生が21,000人もいるとのこと、居住エリアにはスーパーマーケットや郵便局などもあり、ここ全体を「村」と読んで、エリアを構成しているとのことでした。 この後、野菜の圃場、イチゴ、花きを含めた植物、環境を学ぶエリアを見学しました。イチゴ圃場ではちょうど収穫作業をしていましたが、このワーカーは学生ではなく雇用された人だと聞き、驚きました。 畜産加工の施設には衛生管理上、内部には入れませんでしたが、屠殺から製品化までの全工程が学べるような施設、設備が整っていました。この施設には国や州からの援助がないとのこと、募金や企業からの援助を受けているものであると聞きました。 さらに車でしばらく移動し、動物の農場へ向かいました。肉牛の雄を集めての研究をはじめ、牛の飼育全般が学べる施設となりました。この大学では、2時間近くの時間をかけてバスで回りましたが、すべての施設設備を見ることができず、スケールの大きさに驚きました。		 
一日を終えて	トマトやニンニクの栽培圃場は、広大な土地と大きな機械を用いることで効率的な農業を行っていると感じました。また、大学はとにかく広い敷地に驚き、アメリカの広い土地を生かしつつ、エリアで分けられ、とても分かりやすく学べる環境だと思いました。明日からの研修でも、大規模で効率的な農業経営や生産について、今まで見たところや日本の農業と比較しながら研修したいと思います。 文責：臼井美里		